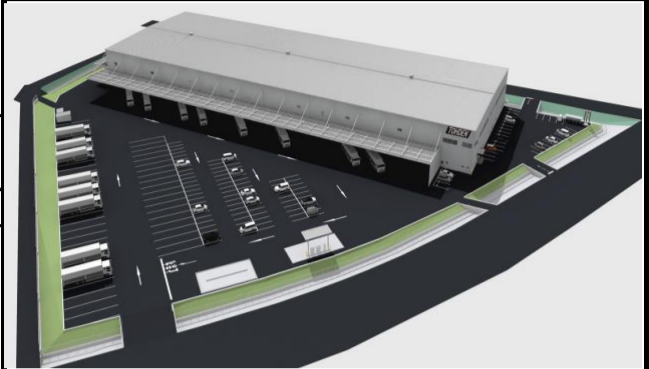


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東電運輸株式会社 物流倉庫	階数	地下0階地上2階
建設地	豊田市高岡町三ツ池35-1他、豊田市若林西町西葉山1他	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,800 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年2月16日
敷地面積	25,958 m <sup>2</sup>	作成者	藤井良輔
建築面積	11,148 m <sup>2</sup>	確認日	2022年3月8日
延床面積	19,997 m <sup>2</sup>	確認者	藤井良輔



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 76%
- ③上記+②以外の: 76%
- ④上記+: 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.5

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>20.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	20.8 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	20.8 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
			評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.5</b>		
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-			
<b>1.2 遮音</b>										
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-			
2 界壁遮音性能			-	-	-	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	3.0	-			
<b>1.3 吸音</b>										
1 吸音			-	-	-	3.0	-			
<b>2 温熱環境</b>										
<b>2.1 室温制御</b>										
1 室温			3.0	-	-	3.0	-			
2 外皮性能			3.0	-	-	3.0	-			
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-			
<b>2.2 湿度制御</b>										
1 湿度制御			3.0	-	-	3.0	-			
<b>2.3 空調方式</b>										
1 空調方式			3.0	-	-	3.0	-			
<b>3 光・視環境</b>										
<b>3.1 昼光利用</b>										
1 昼光率			3.0	-	-	3.0	-			
2 方位別開口			-	-	-	-	-			
3 昼光利用設備			3.0	-	-	3.0	-			
<b>3.2 グレア対策</b>										
1 グレア対策			5.0	-	-	3.0	-			
<b>3.3 照度</b>										
1 照度			3.0	-	-	3.0	-			
<b>3.4 照明制御</b>										
1 照明制御			3.0	-	-	3.0	-			
<b>4 空気質環境</b>										
<b>4.1 発生源対策</b>										
1 化学汚染物質			3.0	-	-	3.0	-			
<b>4.2 換気</b>										
1 換気量			3.0	-	-	3.0	-			
2 自然換気性能			3.0	-	-	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	3.0	-			
<b>4.3 運用管理</b>										
1 CO <sub>2</sub> の監視			3.0	-	-	-	-			
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>3.5</b>		
<b>1 機能性</b>										
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										
1 広さ・収納性			3.0	-	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>										
1 広さ感・景観(天井高)			3.0	-	-	3.0	-			
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-			
3 内装計画			3.0	-	-	-	-			
<b>1.3 維持管理</b>										
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>								<b>2.9</b>		
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-			
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										
1 躯体材料の耐用年数			0.3	3.3	0.33	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管、給湯管、汚水管、雑排水管・B	-	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23	-	-			
<b>2.4 信頼性</b>										
1 空調・換気設備			0.1	2.4	0.19	-	-			
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20	-	-			
3 電気設備			3.0	3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法	②		3.0	1.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備			3.0	2.0	0.20	-	-			

3 対応性・更新性			0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり		②	0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	5.0	0.31	-	3.0	-
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			モデル建物法 BPIm0.84	3.0	4.6	0.20	-	-	4.6
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.5	3.0	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価				1.0	2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、節水タイプ便器、便座擬音装置付	3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	
1		雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	軽鉄+仕上材の構成により 分別を容易にしている	3.0	4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	4.0	0.22	-	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆材の使用	3.0	4.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	
1		消火剤		-	-	-	-	-	
2		発泡剤(断熱材等)		-	5.0	0.50	-	-	
3		冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率76%	-	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器設置なし	-	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	
1		雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	
2		汚水処理負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	
3		交通負荷抑制	敷地内駐車場、駐輪場の完備	-	5.0	0.25	-	-	
4		廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.9	0.33	-	-	2.9
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	
1		騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	
2		振動	独自	-	-	-	-	-	
3		悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.3	0.40	-	-	
1		風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	
2		砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	
3		日照障害の抑制	日影規制 ワンランク上の規制時間をクリアできる	-	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	2.3	0.20	-	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	2.0	0.70	-	-	
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)東電運輸株式会社 物流倉庫

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17
			外構緑化: 20.8%/建物緑化: 0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)東電運輸株式会社 物流倉庫

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 敷地外周はすべて幅5mの緑地帯を設置。西面および北面の敷地境界沿いには水路敷きと道路があり、民地との離隔が確保できている。搬入口以外は窓面積を少なくし、騒音、光害の影響を少なくするように努めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 空間のゆとりについては主用途が倉庫であるため、高さ、床荷重にはゆとりがある結果になった。倉庫: 1階階高は7.0m、2階は6.7m、事務エリア2階は6.7m、2階床積載荷重は1.5トン/m <sup>2</sup> を確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 大型トラックの駐車場、トラックヤード(荷捌き場)は東側及び南側に配置し、騒音、光害の影響が軽減。西側住宅地に配慮した。周囲よりも低地にあることも多少は影響を緩和している。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 一般照明機器をLEDとする。屋根全面は断熱材(グラスウール)厚100mmを挟んだ折板葺き、2階外壁は倉庫部分も含め断熱材(グラスウール)厚100mmを充填した仕様とし、断熱に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型洋便器、自動洗浄小便器、自動水栓(一部)、F☆☆☆☆仕上げ材の使用。(塗装材、錆び止め、塗床材)。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 油水分離槽の設置あり。従業員分と来客駐車場の設置あり。自転車置場(屋根付)の設置あり。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。